2026 年 6 月 16 日

学校法人三幸学園
大阪医療秘書福祉＆IT 専門学校
校長　平松　敏機　殿

学校関係者評価委員会
委員長　岡田　智之

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　岡田　智之（社会福祉法人邦寿会　特別養護老人ホーム高殿苑　施設長）
②　大野　真衣（2020 年度卒業生）
③　堤　隆太（飛鳥未来高等学校　教頭）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2026 年 6 月 16 日（会場　大阪医療秘書福祉＆IT 専門学校　202 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025 年度 学校法人 三幸学園 大阪医療秘書福祉＆IT 専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 石橋 亜希子
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長 岡田智之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①前年度重点施策振り返り

引き続き、少子化・大学進学率の増加など外的要因も考えられるが、入学者が減少している健全な学校運営や最適な教育環境と整える為にも職業の魅力をしっかりと周知し、入学者の増加を目標とした。2025 年度に入学した外国人留学生の適切なビザ更新を実施するための職員の採用や教育の質を担保できるように都度、担当教員全員での会議を実施した。引き続き必要な資格を取得させること・希望に叶った就職に就かせること・卒業後の進路サポートをすることにより安定した留学生募集を継続したい。
また、時代変化にともない通信制高校を選択する高校生が増加し、本校に入学する新入生の中でも通信制高校出身者が年々増加している。今後さらなる多様性を尊重し、SSW と連携をしながら、個別最適化した教育の提供と学生と社会を繋ぐ役割をしっかりと担っていきたい。

②学校関係者評価委員会コメント

＜堤委員＞（全学科）

上級学校がある、学びたい内容がある、自分で選択する制度が増えてきているのはある。通信制は本人の希望を調整しながら通学できるが、専門学校は限界があると感じる。通信制高校は行きたくなければ行かない選択がある。専門学校はそうはいかないのが現状。高校側でも送り出す側として、マインドセットをして送り出さないと早期退学にもつながりかねないと感じる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・複数の学科を展開しており、それぞれの学科がその業界で求められる人材像やスキルの違いを理解する必要がある。

・保護者へ学校の人材育成像を理解していただいた上、家庭と学校との協力体制を強化する必要がある。

② 今後の改善方策

・入学した留学生に対して留学生用のスタートアッププログラムとして、社会人教育と日本での学校生活のルールや基盤を伝えられる準備をしている。

・保護者との連絡ツールとして、携帯から適宜情報を収集してもらえる「スクリレ」の導入を検討している。

③ 特記事項

特になし

④学校関係者評価委員会コメント

＜大野委員＞(医療保育科)

こどもんという保護者ツールを導入している。写真も入れることが出来、購入も可能。

保護者の声としては、先生達からの話だけでなく写真で見られることで、こどもの活動や成長をより感じることが出来るのが良いとの反応。一方で、自分の子どもの顔が映っていないなどの反応もある。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・人事、給与に関する制度が策定され、2年目を迎え、評価力育成会議等を随時行いながら評価に偏りがでないようにする。

・規則はあるものの、全員が同じ認識のもの周知徹底までには至っていない。

・適材適所への人員配置や充実した人財の確保ができていない。

・情報システムや様々な研修が実施されているが、FB する場や学校内部で共有できておらず、全体の業務効率化にまで至っていない。

② 今後の改善方策

・引き続きの面談を実施し、評価される側と評価する側の認識をそろえていく。

・教務に関る規定を年度初めはもちろん適宜周知していく。

・業務効率に役に立つ研修を実施した後での FB や共有する場を設ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

堤委員(全学科)

高校は一年目から担任を持たせている。中途が多い背景も多い。教員免許を持っていることもある。

＜大野委員＞(全学科)

大野委員も三年間副担任として従事し、四年目から担任を持たせてもらった。四年目からでも緊張はあったものの、やりがいはあった。担任初年度はベテランの先生が副担任としてついてくれた。午睡の時間帯に振り返りを実施し、PDCA サイクルを回していた。給与面は大幅に改善された。キャリアアップは資格取得する機会があり、それを取得していると給与アップにつながる。月給ランクの枠の定員が定められている。年次ではなく、努力に対しての給与体系であり、情報がオープンになっている。園長・主任の先生たちのフォローが上手で、この制度によるネガティブなことは今のところない。

＜岡田委員＞（全学科）

我々法人も、昨年より新人事評価制度をスタートさせた。人事評価については、計画・目標が組織目標や理念に沿ったものとなっているか、評価については公平性があるか、結果については納得するかたちでフィードバックできているかが重要と考えている。

しかし、目標設定の個人毎のレベルのばらつきや、期間を通しての評価の難しさ、評価者の偏り、等級基準の理解・浸透等、課題はたくさんある。

（3）教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施· 評価体制はあるか	3
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・授業評価結果の活用と改善サイクルの強化

・教員の指導力・専門性向上

・教職員研修の体系化と充実が必要

・業界ニーズの変化に対応した教育内容の継続的な見直しが必要

・新任教職員へのサポート体制の不足

② 今後の改善方策
・授業評価結果の分析・共有による授業改善の推進をすすめる
・教員研修の充実による教育力向上で教育の質を向上させる。
・教育課程編成委員会や業界関係者との連携強化によるカリキュラム改善を検討する。
・実習・インターンシップの質向上と教育効果の検証を実施する。
・教科のチーフ(学科長)による、新任教職員へのサポート体制の見直しと強化体制を図る

③ 特記事項
特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント
＜堤委員＞（全学科）
単位を取ることが目的(最低限)になっている傾向が多い。高校を卒業しておけば、という考えの保護者も増えている。成功体験が少ない背景の生徒が入ってきていることもある。やりたいことを叶えるチャレンジ、失敗しても良いなどの機会を増やしたいと感じている。ポジティブな夢や目標を思い描いて、失敗してもチャレンジできるようなフェーズに持っていきたい。中3から転入する生徒も多いため、どうしても育成(成長)するのに、時間が不足する。専門学校には、業界で働きたいという気持ちを具現化して膨らませて欲しい。

＜大野委員＞（全学科）
作り物をする時間を社会人になって作るのはやはり難しいため、学生時代に現場に出てから使える知識や技術、物を多く学べたことはすごくありがたかったと感じる。実習を非常に苦労した記憶がある。実習生を受け入れる側になって、やる気・覚悟等の姿勢が不足しているように感じる。本当に保育者になりたいのか、と疑問に思うことがある。受け入れる側が盛り上げる雰囲気すらある。良し悪しではあるものの、遠慮がなくものが言えるのは自分の時代との違いとして感じる。

＜岡田委員＞（介護福祉科）
研修については、面談等を通じて本人の興味があるものや、人事等級毎に求める内容等のさまざまな研修を受講できるよう勤務調整をしている。また外部研修に参加した職員には、その職員が講師となり、他の職員に伝達する場を設けており、学ぶ環境・風土はできていると思う。
一方、その学んだ知識をどう実践していくか、自分や組織の現状課題は認識しているものの、どう改善するかが曖昧で、具体的な行動に移していく力が不足している。
指示待ちではなく、自分で改善できる人材になれるようなサポートの必要性を感じている。
「物事をやりきる」成功体験の積み重ねが重要と考える。

（4）学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	2
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・資格取得率の向上

・退学率の低減

・卒業生との継続的な関係構築および情報収集体制の強化

・教育改善に活用するための効果検証体制の充実

② 今後の改善方策

・教科間連携強化による資格取得率向上

・早期発見・早期対応による退学防止体制の強化

・同窓会等、卒業後の交流機会の創出による卒業後の状況把握の充実

・卒業生や就職先からの意見を教育活動の改善に活用する仕組みの構築

・学習成果の分析と継続的な改善サイクルの推進

・SSWやスクールカウンセラーとの連携強化。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜堤委員＞（全学科）

通信制高校の退学率は3％程度。専門学校と高校では生徒も保護者も退学をするという意識が全く違う。中卒と高卒のステイタスの違いは大きく、通信制高校は最後の砦というような印象があるため、なかなかその選択肢を選ばない。自分が専門学校も経験しているからこそ、退学に対する大きな認識の違いを感じる。

＜岡田委員＞（全学科）

学校も職場も同じだと思うが、退学や離職については、その場所が本人にとって魅力ある場所になっているか、意義のある場所になっているかが一つの目安であると思う。自分でその魅力や意義を見出せないケースが多いと思うので、より身近でいきいきしている先輩や、学校で言うと、卒業後に活躍している先輩の存在は大きいと思う。

そのような先輩や卒業生の存在が身近に感じる事ができる体制があればと考える。

(5)学生支援

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生との継続的な関係構築および情報収集体制の充実
・中途退学者に対する支援のあり方や運用体制の整理
・社会人学生のニーズ把握
・学生支援に関する各種制度・取組のさらなる周知
・卒業後の状況把握や情報発信体制の強化

② 今後の改善方策

・卒業生とのネットワーク構築に向けた情報収集および連絡体制の整備
・中途退学者支援の目的や対象範囲を整理し、実施可能な支援内容を検討する
・社会人経験者を含む多様な学生のニーズを把握し、必要な支援や学習環境について検討する
・卒業生アンケート等を活用し、教育活動改善のための情報収集を行う

③ 特記事項

特になし

④ 校関係者評価委員会コメント

＜堤委員＞(全学科)

中途退学者について積極的な支援はない。再入学の制度はあるが、利用者は少ない(3～4 年に一人いるかどうか程度)。卒業生の支援体制は、組織的にもほぼ実施していない。卒業生 LINE はあるが、飛鳥・きずな・きぼうという大きなくくりの中のため、あまり機能していない。個々の教員との繋がりにとどまっているのが現状。

<大野委員>(医療保育)
保護者支援は手厚く行っている。支援児の診断等を促す際も、園長も入り、かなりの時間をかけ行う。
小学校の選択の際も、必要に応じて園長や旧担任が同行することもある。卒園後すぐ(5月)に同窓会を実施している。研修も頻繁に行っており、どういう思いで保育をして欲しいかというマインドが浸透されている。

<岡田委員>(介護福祉科)
就職にあたってのミスマッチを防ぐためには、学校指定の施設実習以外にも、ボランティアやアルバイトでより多くの施設を見てみる事は有効である。特にアルバイトは、実習と違い一つの仕事を任されるため、他職員との連携もあり、より具体的に現場の仕事を知ることができ、責任感も生まれてくると考える。

(6)教育環境

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題
・施設、備品等の老朽化がある。
・学生教育に最適な実習先の確保と整備が必要。
・防災意識や災害が起きた際の備え・状況把握システムが必要。

② 今後の改善方策
・秋に老朽化部分の改修を実施する
・引き続き、学ぶ環境を整える為に、学生用個人ロッカーを入れ替えた
・安否確認システムを導入し、災害時の教職員の安否や被災状況が確認できるようにした。

③ 特記事項
特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント
<堤委員>(全学科)
今も昔も実は変わらないのでは。多様性の背景(自由の捉え違い)もあるが、OK ラインが下がってしまっていることもある。やってもやらなくても良い中でやる選択肢を取ることの価値づけが必要。これも高校の段階から教えていきたい。

<大野委員>(医療保育科)
避難訓練以外にも、アレルギー児の対応や水害時の対応方法について研修を導入している。

＜岡田委員＞（介護福祉科）
一つの学校で最新の設備を維持していくのは大変だと感じる。介護業界においても、生産性向上にむけて様々な機器が導入されている中で、ネットや、展示会等での知識だけではなく、卒業生が就職している施設や、実習施設先において導入している機器や取組みを実際に体験できる機会を授業として取り入れてはどうか。

（7）学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題
・少子化の影響により高校新卒者の確保が年々厳しくなる中、多様な学習ニーズへの対応が求められている。
・2026年4月開設の「医療事務＆くすり総合科」は、従来3学科を統合した新学科であり、学科の特徴や学びの流れ、卒業後の進路イメージについて、高校生や保護者へより分かりやすく伝える必要がある。
・通信制高校出身者や不登校経験者など、多様な背景を持つ学生の進学ニーズが増加しており、柔軟な登校スタイルの認知拡大が必要である。
・年度途中に募集を開始した国際ビジネス科（2年制）は想定を大きく上回る出願があり、入試運営や面接体制、出願管理体制に課題が生じた。

② 今後の改善方策
・医療事務＆くすり総合科については、「入学後に進路を選択できる」という強みを積極的に発信し、進路未決定層の高校生への募集強化を図る。
・通信制高校生の増加を踏まえ、週3日・週4日・週5日登校などの柔軟な学習スタイルを広報活動において積極的に訴求し、多様な学び方を希望する学生の獲得につなげる。
・オープンキャンパスや学校説明会において、新学科設置の目的や教育内容、就職実績をより具体的に説明し、本校の教育成果を正確に伝える。
・国際ビジネス科については、出願増加を見据えた入試運営体制の見直しを行い、面接担当者の増員や選考日程の最適化、出願管理の効率化を進める。
・留学生募集においては、日本での就職を目指す留学生のニーズに対応しながら、学習支援体制や生活支援体制の充実を図る。

③ 特記事項
・2026年4月開設の「医療事務＆くすり総合科」の募集を開始し、医療秘書科・診療情報管理士科・くすりアドバイザー科を統合した新たな教育モデルを構築した。
・通信制高校生の増加に対応し、学科ごとに週3日・週4日・週5日登校など柔軟な学習スタイルを導入した結果、募集実績の向上につながった。
・年度途中に国際ビジネス科（2年制）の設置認可を受け募集を開始し、日本での就職を希望する留学生を多数

獲得することができた。

・新設学科および留学生学科の募集強化により、2024 年度と比較して募集活動の成果が向上し、新たなターゲット層の開拓につながった。

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜堤委員＞（医療保育科）

未来大学で四年間の保育の学科を見ていたが、保育の学びでの四年は長いと感じたため、三年が丁度良く感じた。二年制の学校・学科は忙しい印象もあるため通信制だと進めにくいのが現状。

＜大野委員＞（医療保育科）

2年でも学べるものを3年で取得することに関しては、学びのスピードや余裕を考えてもとても良かったと思う。

人気園以外は、待機児童はほぼいない現状。募集はしているものの新卒が入らず、中途が多い。

＜岡田委員＞（介護福祉科）

今後も外国人留学生の募集は拡大されると考える。外国人留学生募集についての競争力を強める独自の取組みが必要になってくるのではないか。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

老朽化における修繕が都度発生しており、中長期を見こして大幅な改修を計画

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＜大野委員＞(医療保育科)

男性職員は着替えやおしり拭きなどは控えている。保護者には提言はしていないが、事前に園内で配慮している。一方で匿名の意見であったのが、男性保育者がいないことが何かあった時に女性だけでは心配という声もあった。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題
・社会・地域貢献活動については実績があるものの、継続的な取組として展開する体制が十分ではない。

② 今後の改善方策
・「西中島クリーンアップ」として姉妹校と連携し掃除ボランティア活動を継続する。
・万博パビリオン出展等の実績を活かしながら、教育効果の高い社会・地域貢献活動への参画機会を継続的に模索する

③ 特記事項
特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント
＜堤委員＞(全学科)
高校のボランティア(インターンシップ)は、単位化されている。ヴィッセル神戸のスタジアムイベント(ホラーイベント)でのボランティアを専門学校と連携して実施した。内容は、案内スタッフ。赤い羽根募金は協会に連絡をすればグッズを貸してくれる。学校と募金ののぼりを持って実施した。社会貢献については小学校から叩き込まれているため(SDGs 等)、重要性は理解している。

(11)国際交流

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題
・介護福祉科および WEB デザイン・IT プログラミング科において留学生数が大幅に増加したことから、学習支援や生活指導、進路支援を継続的かつ安定的に実施できる体制強化が求められる。
・留学生の日本語能力には個人差があり、専門科目の理解度向上や資格取得に向けた学習支援のさらなる充実が必要である。

・留学生の増加に伴い、ビザ管理や出席管理、アルバイト指導などの業務量が増加しており、適切な管理体制の維持が課題となっている。
・卒業後の日本国内での就職を希望する留学生が増加しているため、特定技能試験対策や就職支援をより計画的に実施する必要がある。

② 今後の改善方策
・日本語学校での指導経験を有する職員を中心に、授業支援体制を継続するとともに、留学生の日本語能力に応じた個別支援を強化する。
・日本語能力向上プログラムを充実させ、専門科目の理解促進と学習成果の向上を図る。
・ビザ更新、出席率管理、資格外活動（アルバイト）管理等について、関係部署との連携を強化し、適正な留学生管理を継続する。
・合同企業説明会への参加促進や企業との連携強化を図り、特定技能試験や就職活動に向けた支援を体系化することで、卒業後の進路実現につなげる。
・留学生と日本人学生との交流機会を増やし、学習面だけでなく学校生活全般における相互理解と定着支援を推進する。

③ 特記事項
・日本語学校での教員経験を持つ職員を採用し、授業において教科担当者と連携した学習支援体制を構築した。
・留学生の日本語能力に応じて翻訳機を導入するとともに、日本語能力向上支援を実施し、学習環境の整備を推進した。
・ビザ更新、出席率管理、アルバイト状況の確認などを徹底し、適正な留学生管理を実施した。
・合同企業説明会への参加促進や特定技能試験受験の支援を行い、留学生の日本国内での就職意識向上と進路支援の充実を図った。

④ 学校関係者評価委員会コメント
＜大野委員＞（医療保育科）
外国人の入園児は場所によって偏りはあるが、戎本町はほとんど外国人。ベトナムや中国が多い。保育者側では今のところいない。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
教育理念の浸透、教育課程の体系化、学生支援体制、財務基盤の安定性、国際教育の推進など、多くの領域で高い水準を維持していることが確認された。一方で、資格取得率・退学率の改善、教職員育成、卒業生ネットワーク構築、多様化する学生層への支援強化など、継続的な改善が求められる領域も明確となった。